

## ホッキョクグマを題材とした環境教育プログラムの一例について

○麻生千晶，伊藤咲良，渡辺海咲，坂田直樹，須田朱美，松山薫  
(公益財団法人 横浜市緑の協会 横浜市立よこはま動物園)

ホッキョクグマはメディアにも度々取り上げられるなど、ゾウやキリンに並び、人気動物であり、また、地球温暖化の影響を受ける動物としてシンボリックな存在である。そこで、ホッキョクグマを通じて地球温暖化防止を啓発する環境教育プログラムを実施した。プログラムに参加したひとりひとりが地球温暖化防止対策を考え、日頃の生活の中で実行してもらうことを目的とした。

実施方法は、当日の事前申込み制で定員は 20 名、所要時間は約 30 分とした。紙芝居やクイズを実施後、参加者ひとりひとりに地球温暖化防止のために自分ができることを用意したシートに書いてもらった。その後、ホッキョクグマを観察しながらガイドを実施した。プログラム終了後には、地球温暖化防止に関する意識に変化があったか問うアンケートを配布し、自宅で記入してもらった。

参加者は、30 代～40 代の親と未就学児が多く、プログラムの中では地球温暖化防止のためにできることについて「冷蔵庫を閉める、使わないコンセントは抜く、エコバックを使う、テレビを点けっぱなしにしない」など、様々な実行内容が上がった。また、事後アンケートでも、生活に変化があったとの回答があった。

小学校低学年程度をメイン対象としてプログラムを企画していたが、予想以上に未就学児の参加が多かった。今後は、未就学児にも分かりやすいように教育ツールを使い、例を上げて話をすることが重要であると感じた。また、参加者を飽きさせず、楽しんで学べる工夫をしていきたい。